

文明の形成にみる 環境と文化

—レヴァント考古学の視点から

現代社会の基層を醸成したオリエントの古代文明は、多彩な環境の下で暮らす数々の人間集団がそれぞれの役割を果たして興りました。とりわけレヴァントと呼ばれる地中海東岸地域は、西アジア特有の複雑な自然環境下にあるうえ、文明の表舞台であるティグリス・ユーフラテスとナイルの両大河流域に挟まれ、地中海や死海地溝帯といった交通の大動脈を有する、地勢的にも異彩を放つ地域です。また、文明への出発点ともいえる定住農耕生活の開始をはじめ、先史時代において多くの人類史的革新を生み出したことでも知られています。

このたびの機会では、レヴァントの先史文化に焦点を絞り、現地調査に携わる考古学者に様々な環境下にみられる物質文化の比較という観点から研究成果をお話いただくことで、この地の特異な環境とヒトとの相互作用が人類史の展開にもたらした影響について理解を深めたいと思います。

日時 | 2011年12月3日(土) 13:30 ~ 18:00 (13:00 開場)

会場 | 早稲田大学戸山キャンパス 36号館 5階 581教室

東京都新宿区戸山1-24-1 (東京メトロ 東西線 早稲田駅 徒歩3分・副都心線 西早稲田駅 徒歩12分)

講演 (13:30 ~ 14:40)

新石器時代移牧民のダムとシスターン —西アジア周辺乾燥域の水利史から見た遊牧化の経緯
金沢大学歴史言語文化学系 教授・藤井 純夫 氏

研究報告 (14:50 ~ 16:50)

気候変動と文化変容

—西アジアにおける 8.2ka イベント

東京文化財研究所文化遺産国際協力センター 特別研究員・有村 誠

Natural or Cultural?

—新石器時代の石材利用環境

筑波大学人文学類 非常勤講師・前田 修

山間の土器・平原の土器・低地の土器

—西アジアにおける土器製作の拡散と変化

早稲田大学高等研究所 助教・小高 敬寛

The Desert and the Sown

—遊牧・農耕社会の共生関係の成立過程

東京文化財研究所文化遺産国際協力センター 特別研究員・安倍 雅史

コメント・総合質疑 (17:00 ~ 18:00)

コメンテーター

早稲田大学文学学術院 教授・高橋 龍三郎

早稲田大学高等研究所 助教・井黒 忍

入場無料・事前申込不要

どなたでも自由にご来聴いただけます。
直接会場までお越しください。

主催 早稲田大学高等研究所
<http://www.waseda.jp/wias>

後援 日本西アジア考古学会
早稲田大学考古学会

お問い合わせ

早稲田大学高等研究所・小高研究室
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1
Tel./Fax. 03-5286-2955

戸山キャンパス

MAP



キャンパス

マップ

